

普及かわら版

For The Top Management

ホームページは
砺波農林振興センターで検索

砺波農林振興センター

検索



砺波農林振興センター
ホームページ

＜第62号＞ 令和8年1月
富山県砺波農林振興センター
〒939-1386 砺波市幸町1-7
(砺波総合庁舎内)

TEL 企画振興課 (0763) 32-8130
担い手支援課 経営支援班 32-8111
園芸振興班 32-8112
農業普及課 砺波班 32-8113
南砺班 32-8114
FAX (0763) 32-8140(企) 32-8139(担・農)



管理看板を活用した水管理、葉色誘導指導
(R7. 7月 南砺市)



白ねぎプラフリー肥料試験の収穫物
(左：慣行肥料、右：試験肥料) (R7. 11月 砺波市)



(農) ガイアとなみで農縁マルシェ
(R7. 11月 砺波市(農) ガイアとなみハウス、いちご直売所)



砺波地域農業経営継承セミナー
(R7. 11月 南砺市福野体育館)

目次

(表紙)	目次	1ページ
(水稲)	令和7年産水稲の生育状況と次年度対策	2～3ページ
(主穀作)	多発するカメムシ類	4ページ
(園芸)	環境に配慮した園芸生産の技術確立	5ページ
(園芸)	農業と福祉の連携で WIN-WIN	5ページ
(経営)	経営継承のすすめ	6ページ
(経営)	農業簿記相談会のご案内	6ページ
(農村)	農業現場で楽しく交流	7ページ
(農村)	地域を支援する「パートナーシップ協定」の新たな締結	7ページ
(機械)	ドローンのバッテリーは適切に保管しましょう	8ページ
(表彰)	栄えある受賞 おめでとうございます	8ページ

令和7年産水稻の生育状況と次年度対策

～過酷な気象条件下の水稻作を振り返り～

1 令和7年産の概況

7月に入り高温少雨で経過したことで、一部地域では水不足により管理が非常に困難な地域もありましたが、適切な栽培管理と多発したカメムシに対する防除により、管内のうるち米の上位等級比率は10月末時点で90%以上、収量は平年並以上が確保されました。

(1) 気象条件と生育状況（コシヒカリを中心に）（図1、図2）

育苗期間中は、気温が低く短日照だったことから、ハウス内が高温にならず、苗の草丈14.0cm、葉令2.6と目標に近い生育となりました。

田植え直後の5月17日～25日には4回の強風、5月5半旬から6月3半旬までの低温、短日照で、田植日によっては植え傷みしたほ場もみられ、活着までに日数を要しました。また、2葉目から発生する茎の確保ができず、その後の茎数も抑制され停滞しました。

中干し開始時期の6月上旬は、気象条件は良好でしたが茎数250本/㎡程度と少なかったことから全体的に中干し開始が遅れました。

分けつ期の6月中旬から7月が高温長日照(高日射)に推移したことから、生育が回復し6葉目から発生する茎が穂となる弱勢穂が発生したほ場も見られました。この時期は、少雨に推移し水不足が生育に影響を及ぼしたほ場もあり、管内では、給水車により水を供給したほ場もありました。

出穂後は、一時的な低温で出穂後20日間の平均気温は27℃程度と品質への影響は最小限度に抑えられたと考えられ、登熟後半は、長日照で降雨も適度にあつたことから、成熟期まで土壌水分が保持され登熟条件は良好であったものの、一部で胴割米の発生が見られました。

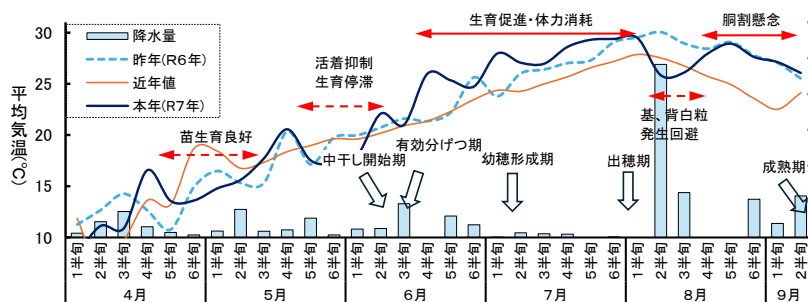


図1 気象状況と生育への影響について
※砺波アメダスデータ 近年値は過去10年の平均値

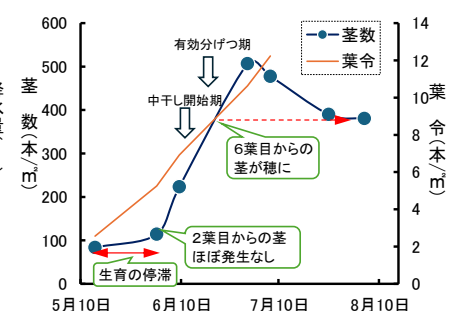


図2 茎数の推移
※管内R7年コシヒカリ8ほ場調査結果

(2) 収量・品質

収量構成要素は、 m^2 穂数が少なく、1穂粒数に依存して m^2 粒数は297百粒（目標比106）と、やや多くなりました。登熟期間中の気象条件は良好でしたが、登熟歩合は目標より低くなりました。一方で、千粒重は重くなり、収量は目標より多くなりました（図3左）。

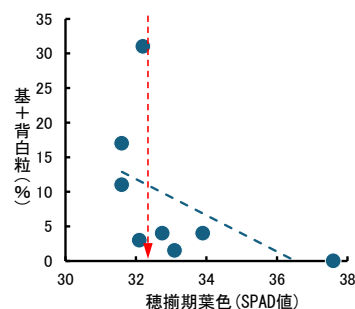
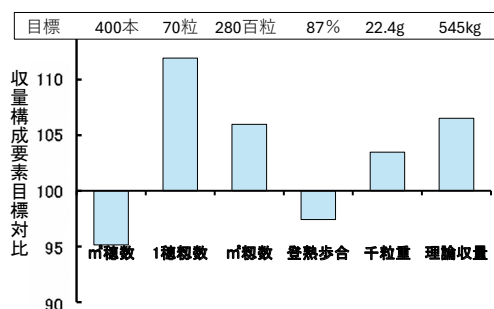


図3 左：収量構成要素 右：穂揃期葉色と白未熟粒の発生状況
※管内R7年コシヒカリ8ほ場調査結果（図中の数値は目標値）

品質は、出穂後 20 日間の平均気温が 27℃以上(砺波：アメダスデータ)とならなかったことから全体的には白未熟粒の発生も少なくなりました。しかし、穂揃期の SPAD 値 32(葉色板 4.2)以下では、基白粒と背白粒の発生が多くなる傾向がみられました(図 3 右)。

斑点米は主な格下げ要因となっていますが、多発地域では 3 回防除が実施されたことから全体的には少なくなっています。カメムシの情報は 4 ページを参照してください。

2 令和 8 年産コシヒカリに向けた栽培管理のポイント

～ 猛暑を想定した栽培管理を ～

安定した収量と高い品質を確保するため穂数 400 本/㎡、粒数 28,000 粒/㎡、穂揃期の葉色 4.3 以上とすることとカメムシへの適切な防除が必要です。ポイントを逃さず管理をしましょう。

(1) 穂数 400 本/㎡の確保 ⇨ 植え付け苗数の確保

強健な穂を確保する場合は、5 葉目から発生する茎までとされています。現状、密苗の普及、植付時の葉齢の進み、植付が深く田植え同時除草剤の使用による影響から、多くの苗は 3 葉目以上から茎が発生しており、1 本の苗から 4 本の穂しか確保できていません。そのため 70 株(21.2 株/㎡)植えの場合、計算上一株当たり 4.7 本の植付本数が必要となります。

一方、適正な管理がされた場合は 2 葉から茎が発生し、1 本の苗から 6 本の穂が確保され(図 4)、70 株植えの場合、計算上一株当たり 3.2 本の植付本数で済むこととなります。

穂数が確保しにくい圃場では、田植時の苗の掻き取り量を見直し、植付本数を増やすことも検討しましょう。

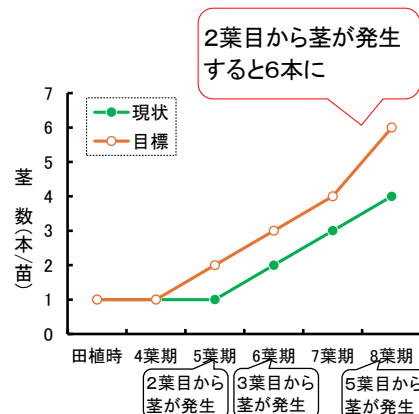


図 4 葉齢と茎の発生状況

(2) 28,000 粒/㎡への誘導 ⇨ 幼穂形成期の生育量(草丈 72cm × ㎡茎数 470 本 × 葉色(葉色板 3.8) = 129 へ)

中干しは、茎数に関係なく田植 4 週間後に確実に開始し生育をコントロールしましょう。

また、一度に強く干し上げず、土壌の湿潤状態を保ち幼穂形成期の葉色を落とさない管理をしましょう。

(3) 穂揃期葉色の確保 ⇨ 幼穂形成期 10 日後の葉色確認

幼穂形成期 10 日後に葉色を確認することが重要です。

葉色が 4 以下(砂壤土は 4.2 以下)の場合、出穂直前に窒素成分で 1 kg/10 a 程度を施用する必要があります。ドローンや流し込み肥料なども活用し施用しましょう。

(4) 斑点米カメムシの防除対策 ⇨ 多発地域は追加防除で対応

近年、春先からカメムシの発生量が多いことから、カメムシを増殖させない環境づくりが必要です。このため、春からの畦畔、麦跡、休耕田等のイネ科雑草の除草の徹底はもちろん、本田内のヒエやホタルイを発生させないように管理しましょう。

以上の作業を実施し、本田基本防除後にもカメムシが多い場合は、追加防除で対応しましょう。また、カメムシが多い地域の早生品種は 3 回防除を基本としましょう。

カスミカメ類
が好むイネ科
雑草→



カメムシの繁殖
源となるほ場内
の雑草→



多発するカメムシ類

～最近のカメムシの発生状況を踏まえて～

1 斑点米カメムシ

近年、水稻の斑点米を発生するカメムシの主要種はカスミカメ類ですが、これまで山沿いで見られたクモヘリカメムシが平野部でも多く確認されるなど、ほ場内での発生が増加傾向にあります。

防除は、畦畔、雑草地の雑草管理と穂揃期以降の2～3回の薬剤散布が有効で、本年、管内では防除後のほ場内を調査するとカスミカメ類は見られませんでした。トゲシラホシカメムシが確認されたほ場がありました。

さらに、石川県で確認され本県では未発生のイネカメムシは、多発した場合、出穂期の加害で収量にも影響するため防除時期を見直す必要があります。

現在、斑点米での格落ちが少ないことから、当面は畦畔除草や薬剤防除の徹底を図ることが重要ですが、今後は発生するカメムシの種類により防除体系を見直すことも必要となります。

近年の主要種 カスミカメ類



アカシカスミカメ



アカヒゲホソドリカスミカメ



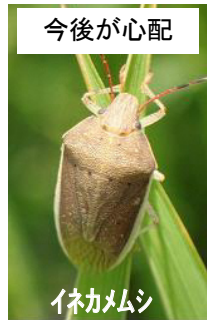
最近復活

トゲシラホシカメムシ



近年増加拡大

クモヘリカメムシ



今後が心配

イネカメムシ

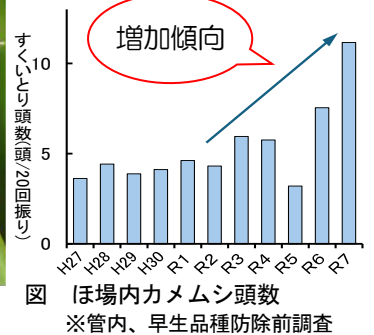


図 ほ場内カメムシ頭数
※管内、早生品種防除前調査

2 ダイズ吸実性カメムシ

ダイズを加害するカメムシは、主にホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシで、他にトゲシラホシカメムシ等多種にわたります。

近年は、発生数が増加傾向で子実が吸汁されると陥没することで被害粒が発生し、多発した場合は青立株になることがあります。

防除は、8月上旬と下旬の2回の薬剤散布が基本で、飛翔能力の高いホソヘリカメムシを除き発生密度を抑制することができますが、9月10日以降になると急激に増加しているため、カメムシが多いほ場では追加防除の必要があります。

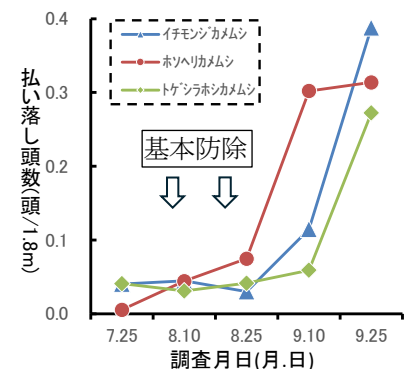


図 県内の主要カメムシの発生推移
※農業研究所・病理昆虫課調べ



飛翔性が高く防除しにくい

ホソヘリカメムシ



生育後半に発生

イチモンジカメムシ



被害粒

カメムシによる陥没粒



青立株

環境に配慮した園芸生産の技術確立

～プラスチック・フリーな野菜栽培～

近年、プラスチックによる海洋汚染が注目されており、農業生産においてもプラスチック問題に対して適切に対応することが必要です。園芸作物ではマルチを活用する栽培が多く、合成樹脂等の膜でコーティングした被覆肥料については主穀作に比べると代替肥料が普及していません。そこで本年度白ねぎとさつまいもにおいて実証ほを設置して技術確立を図っています。

1 白ねぎ栽培における完全生分解性硫黄被覆肥料（SCU）の検証

白ねぎでは肥効調節型肥料（プラスチック被膜肥料）を用いた全量基肥栽培が広く行われており、その代替となる完全生分解性硫黄被覆肥料（SCU）を砺波市内の秋冬ねぎ栽培で比較検証しています。11月の生育調査では肥料による生育差はありません。

2 さつまいも栽培における生分解性マルチの検証

さつまいもは全期間マルチ栽培が一般的です。そこで、慣行のマルチと生分解性マルチを比較検証しました。収穫前において、生分解性マルチでも、うねはほぼ被覆されていますが（写真）、マルチを取り除く作業が不要で省力的でした。地温は慣行マルチより低く推移し、収量も生分解性マルチで多くなっていました。

なお今年の実証結果については、研修会等で報告します。



写真

左：生分解性マルチ 右：慣行マルチ

農業と福祉の連携で WIN-WIN

～農福連携で労働力の確保と地域共生～

1 農福連携とは

「農福連携」とは、障がいのある方の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組みのことであり、農業の視点からは、人手不足の農業現場における貴重な働き手となることが期待でき、福祉の視点からは、働く場の確保や工賃向上、社会参画の実現などが期待される重要な取組みです。県内では令和6年度に89件で取り組まれています。

2 当センター管内の「農福連携」の取組み事例

管内のA経営体では、社会福祉協議会から「何か仕事はありませんか。」との話を受け、試験的に「にんじん」の収穫作業を依頼したことがきっかけで始まりました。作業は、収穫機が入るうねの侵入口にある「にんじん」を手で収穫後、葉切りしコンテナへ入れるといったものでした。作業日は福祉事業所から支援員の方も来られ、作業される方への指示を行っていただいています。現在では、3事業所からこれらの作業に加え「にんじん」のほ場内での選別や、「たまねぎ」の補植作業、「青ねぎ」の収穫後の調製作業など屋内外問わずお願いする作業も増え、経営者の方から「効率的に作業され、非常に助かっている。」とのことでした。



写真 たまねぎの補植作業

農福連携を円滑に進めるには、農業側、福祉側お互いの考え方などを理解することが重要です。まずは、どのような作業が可能であるか、作業期間や時間、作業料金の設定などについて、お互いに話し合いを行い、十分に理解したうえで取り組むことが大切です。

県では、農業側・福祉側双方のニーズを聞き取り、円滑な受委託が行われるようマッチングを行う「農福連携コーディネーター」を配置しているほか、「農福連携ガイドブック」などを作成しています。農福連携をお考えの方は、県のHPをご覧ください。



<https://www.pref.toyama.jp/1611/sangyou/nourinsuisan/nougyou/keieitaisien/noufukurenkei.html>

経営継承のすすめ

～とやま農業経営継承ハンドブックの活用を～

県内 233 の地域計画（令和 7 年 3 月末時点）では、10 年後に農業を担う者がいない農地が県全体の 3 割超となり、計画に位置付けられた担い手も多くが「現状維持」としていることがわかりました。

これらの担い手が高齢化等により離農し「現状維持」をできなければ、米をはじめとした農産物生産が縮小し、地域農業の減退が避けられない状況です。

このため、現在の経営者から後継者へバトンを渡す「経営継承」を進め、将来の担い手を確保し育成することが極めて重要です（図 1）。経営者の方は、資源点検表を活用して、人、機械・施設、農地、金など今後の 10 年間の動きを把握し、今後の課題の確認と継承の準備を進めて下さい（図 2）。

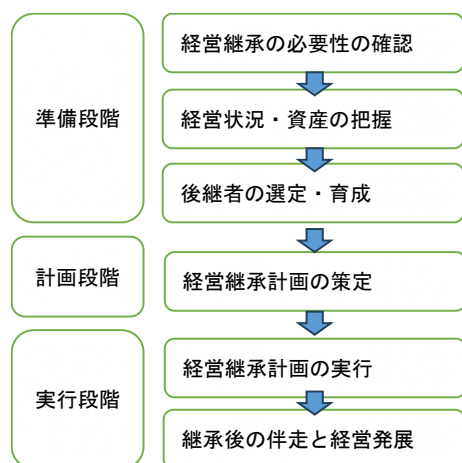


図 1 経営継承の進め方

農業の経営継承に関する手引き（農林水産省 R3 農業経営・改善支援調査委託事業）より作成

経営者の人、土地、機械・施設、金などの現状と課題を確認するための表。表には「人（年齢やオペレーター）」、「土地（面積、品目（作付面積）」、「機械・施設（規格、購入年、台数）」、「金（総収入、経常利益など）」などの項目が記載されている。

図 2 資源点検表

（出典：R6.7 集落営農広域連携研修会資料）

経営継承に向け現状と課題を確認

【資源点検表の項目】

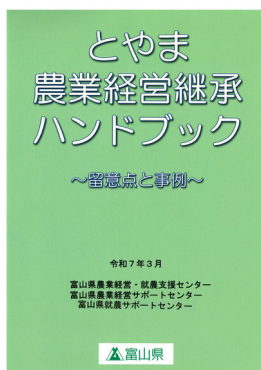
人（年齢やオペレーター）
土地（面積、品目（作付面積））
機械・施設（規格、購入年、台数）
金（総収入、経常利益など）



農業経営継承の推進
（ハンドブック他）

県が令和 7 年 3 月に作成した「とやま農業経営継承ハンドブック」では、親族内継承だけでなく、後継者がいない場合の第三者継承についても留意点や事例を紹介しています。

是非ご活用いただき、経営体に応じた継承計画を早期に作成し、後継者候補とともに、関連する専門家、関係機関にご相談ください（図 3）。



継承計画の作成はお早めに！

【経営継承シートで具体的に作る項目】

- ・現在取り組んでいる経営発展の方向性
- ・継承したい時期
- ・後継者に求める資質
- ・後継者候補
- ・所有資産（有形資産と無形資産）のリストアップ
- ・継承方法等
- ・周知する関係機関
- ・経営継承計画（事業計画、経営者、後継者、後継者への研修内容）

図 3 左 とやま農業経営継承ハンドブック 右 経営継承シート（R7.3 県農業経営課作成）

農業簿記相談会のご案内

詳細は同封資料をご覧ください。事前の申し込みが必要です。担当：経営支援班（TEL：32-8111）

日時：令和 8 年 1 月 22 日（木）9:30～12:00、13:30～16:00

2 月 5 日（木）、2 月 17 日（火）13:30～16:00 の間の 30 分程度/経営体

場所：砺波総合庁舎 3 階 306 会議室 講師：（株）トヤマデータセンター

農業現場で楽しく交流 ～農事組合法人ガイアとなみで農縁マルシェ～

“大切に育てた野菜や果物、それらを使った美味しいものを観て愉しみ、食べて笑顔に、体験して喜びを農と食を通して愉しもう！”を合言葉に、「農縁マルシェ」が11月8日、砺波市の農事組合法人ガイアとなみで開催されました。

去年は、県主催により当地で「なやマルシェ」が開催されましたが、好評であったことから、今年度は(農)ガイアとなみが企画されました。

当日は、県内と金沢市、能登町から31ブースの出展があり、新米、採れたて野菜・果物、スイーツ、ジャム等が販売され、お昼時には完売する店が出るほどでした。併せて、アイシングクッキーづくり体験なども行われ、地元の方をはじめ、親子連れ等多くの方で賑わいました。

(農)ガイアとなみの中島一利代表は「天候に恵まれ、広くした駐車場が満車になるほど多くの方に来ていただいた。ガイアとなみを地元の方はもちろん県内外の方に来ていただき知ってもらうきっかけになった。農業への理解・地産地消の一端を担うことができたのではないかな。」と話しておられました。



大勢の人で賑わう農縁マルシェ



ワークショップ「クッキーづくり」

地域を支援する「パートナーシップ協定」の新たな締結 ～ 世界遺産相倉集落の保全 ～

1 中山間地域保全パートナーシップ協定とは

中山間地域は、過疎化や高齢化の進行に伴う担い手不足等から、耕作放棄地の増大や集落機能の低下が懸念されています。こうした中、企業や市民団体等では、社会貢献活動として地域や農業生産の場に参加しようとする動きが広がっており、お互いが対等なパートナーシップを築きながら、双方の資源・人材・ネットワークを活かした協働活動に取り組むことにより、地域の活性化に資することを目的として協定が締結されています。

県内初の協定は、平成24年度に南砺市の「越中五箇山菅沼集落保存顕彰会」と「中日本高速道路株式会社」で結ばれ、令和6年度末では当センター管内では3件の協定が締結されています。

2 新たな協定の締結

令和7年10月17日に、永続的保存継承を主軸に①世界遺産地域の景観保全、②世界遺産地域を守る人づくり、③世界遺産集落の維持、④世界遺産の周知に関する事業を行っている「世界遺産相倉合掌造り集落保存財団」と“社員共通のふるさと”として合掌造り一棟を研修所として借り受け、地域住民とのコミュニケーションをとりながら、棚田での米づくりや茅葺屋根用の茅刈り作業など、長年に渡り活動されている「株式会社クイック」

が、相倉集落における環境や景観の保全、地域を守り続けることへの理解と意識の向上、地域資源の教育への活用など、相倉集落の活性化に資することを目的に協定を締結されました。(写真)

お二人とも、「世代が変わっても活動を継続して欲しい。」と締結式に参加された若手の皆さんに話され、当センターとしても活動に対し伴走支援を行ってまいります。



写真：パートナーシップ協定 締結式

ドローンのバッテリーは適切に保管しましょう

農薬散布などにおいて、農業用ドローンの導入が進んでいます。農業用ドローンのバッテリーの多くはリポバッテリー（リチウムイオンポリマーバッテリー）が採用されており、適切に管理・運用することで寿命を延ばすことができます。特に、長期間使用しない冬期間の保管方法は非常に重要です。

【冬期保管の注意点】

1 保管場所

リポバッテリーは衝撃に弱いので、落下の恐れがある場所や水回りでの保管は避けましょう。

万が一、落下させた場合は、使用を中止し、業者に点検を依頼してください。また、発火のリスクに備え、周囲に燃えやすいものがないか必ず確認しましょう。

2 保管環境

保管温度は 22～28℃、湿度は 40～50%が理想的です。耐火性のある保管ケースを使用すると、より安全に管理できます。

3 充電状態

長期保管時の理想的な充電レベルは 60%前後です。満充電の状態（充電したまま）での保管は避けましょう。一方、充電残量が極端に低い状態で保管すると、バッテリーが劣化・故障し、使用不能となる場合があります。少なくとも 3 か月に一度はバッテリーの残量や状態を確認しましょう。

なお、一部のドローンには、従来のリポバッテリーに高度な管理機能を搭載し、バッテリーの状態を監視・最適化するインテリジェントバッテリーが採用されている機種もあります。取扱説明書をよく確認し、バッテリーの特性を十分に理解したうえで、適切な保管に努めてください。

栄えある受賞 おめでとうございます

令和 7 年 7 月から 12 月に各種農業賞に表彰された皆様をご紹介します。長年各分野にわたるご功績が称えられました。今後も益々ご健康でご活躍されることをご期待申し上げます。

富山県産業経済部門功労表彰（農林漁業）（令和 7 年 10 月）

農事組合法人ファーム八乙女（南砺市）

平成 17 年に広域合併した法人として設立以来 20 年間にわたり、高品質な水稻生産に尽力されるとともに、園芸作物の導入による経営の多角化に取り組まれるなど、地域農業の振興に寄与されており、その功績が高く評価されました。

左：澤田秀継代表理事 右：滝口所長



富山県農林漁業振興会長表彰（農業）（令和 7 年 10 月）

平木 哲氏（砺波市）

多年にわたり、農業関係団体の要職にあつて、その健全な発展に努められるとともに、水稻育苗や雪たまねぎの栽培に尽力されるなど、地域農業の振興に寄与されており、その功績が高く評価されました。

左：平木 哲氏 右：滝口所長



富山県農村文化賞（令和 7 年 12 月）

農事組合法人あさひ（砺波市）

経営規模の拡大や常時雇用による複合経営を推進し、経営の安定化を図るとともに、こどもの農業体験に取り組むなど地域農業の振興に寄与されており、その功績が高く評価されました。

左：高島康治副代表理事 中：浄土正樹代表理事 右：滝口所長

